

STRDESIGNの適用範囲

No.	項目	STRDESIGNにおける扱い	備考
1	構造計算の手法	許容応力度計算法によります。 設計法は(財)日本住宅・木材技術センター刊の「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」に準拠しております。 以下の内容は標準計算/詳細計算の選択が可能です。 ・柱脚柱頭接合部の引張耐力の検定 ・横架材端接合部の引張耐力の検定 上記以外は標準計算法によります。 また、以下の計算は別の書籍を参考にしています。 ・柱のめり込みの検討(3階建木造住宅の構造設計と防火設計の手引き:(財)日本住宅・木材技術センター刊) ・混構造の検討(3階建混構造住宅の構造設計の手引き:(財)日本住宅・木材技術センター刊)	
2	構造計算のルート	ルート1およびルート2(層間変形角の検討および剛性率の算定)	
3	構造種別	・木造軸組工法住宅(在来工法または金物工法) ・混構造住宅の木造部	
4	構造形態	一戸建ておよび集合住宅	
5	建設地域	全国(一般地域および多雪地域)	
6	階数	1階~3階建て(4層目となる3階上の小屋裏収納は不可)	
7	最高高さ	13m以下(ルート1の場合)	入力制限はありません。
8	最高軒高さ	9m以下(ルート1の場合)	入力制限はありません。
9	階高	各階 2.4m以上 3m以下 ただし、入力制限はありません。	
10	延床面積	約500㎡以内	入力では制限をかけておりません。 計算の可否は部材数によります。梁、柱等の部材検討数はそれぞれ最大約500(入力数ではなく、分割後の検討数)までです。
11	モジュール	特に制限なし	
12	積雪単位重量	計算は一般地域、多雪地域について対象です。 積雪単位重量の初期値:20N/cm ²	多雪地域の場合は初期値を任意に変更することになります。
13	地盤の許容応力度	20kN/cm ² 以上	
14	各層のレベル	水平のみ(一部母屋下がり可)	スキップフロアを入力することは可能ですが、計算の適用可否は利用者の判断となります。
15	建物の形状	以下の形状、構造に対応しています。 ・平面上での斜めの壁 ・勾配梁(登り梁)	
16	屋根の形状	切妻、寄棟、片流れ、方形、腰折れ、マンサード、入母屋、半切妻等の屋根に対応しています。 屋根の流れ方向は、平面プランに対して東西南北の4方向が入力できます。(北東、北西、南東、南西は不可) また、曲面屋根には対応しておりません。	陸屋根は入力可能ですが、流れ方向に平行な部材には荷重がかかりません。
17	天井	水平天井のみです。	
18	基礎の構造	布基礎およびべた基礎	杭基礎、偏心基礎は対象外です。
19	構造材の接合	ピン接合のみです。	ラーメン架構は対象外です。
20	平面の形状	以下の形状は、本プログラムが使用している許容応力度設計法に適用できません。 ・極端なコの字またはL字形 ・上階が2つ以上の部分に分かれている(ツインタワーなど)。 入力に制限はかけていませんが、プログラムが適用できるかどうかは設計者の判断になります。	